

建物内への虫の侵入を未然に防ぐ!

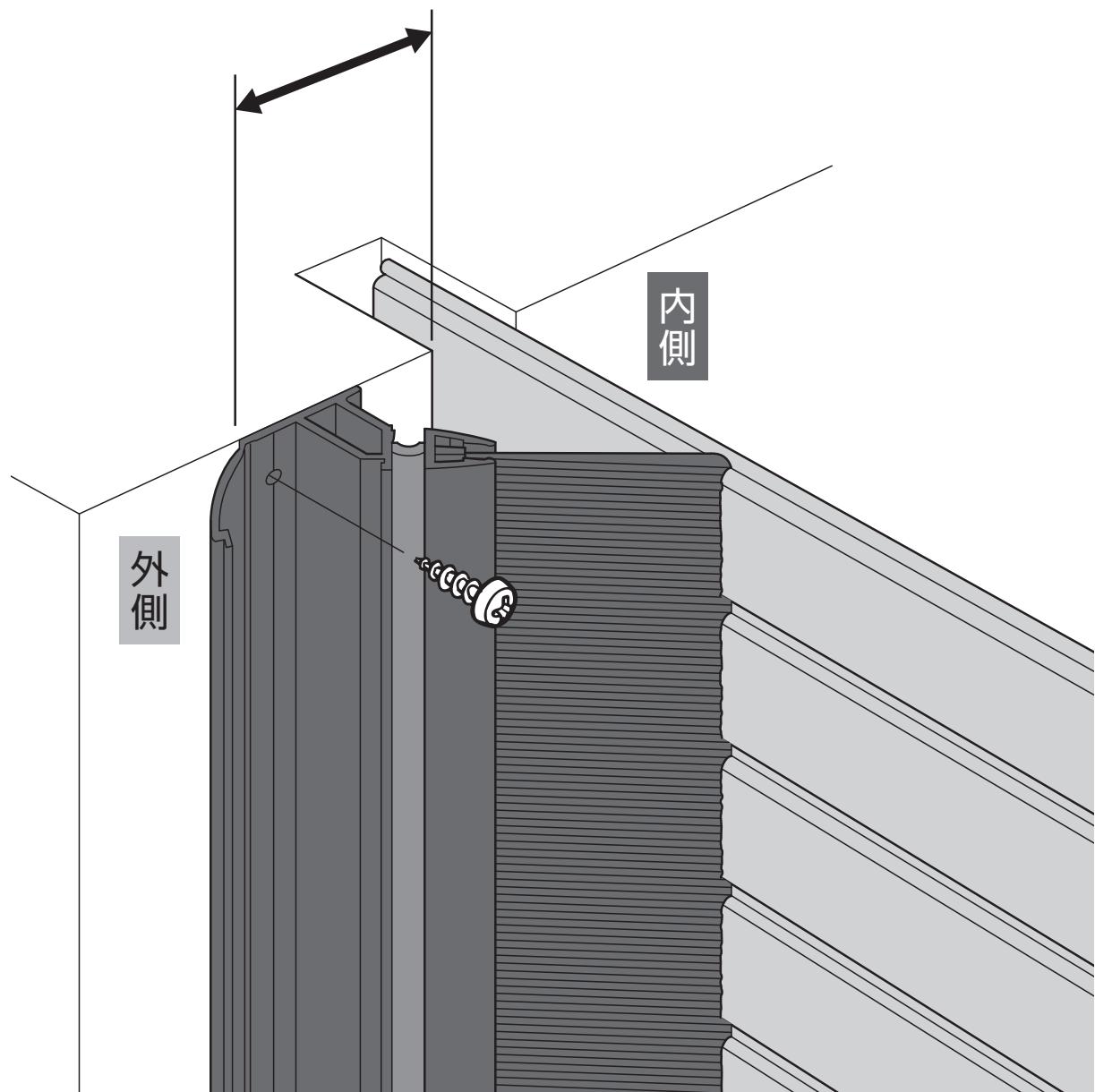
BURRSHUT II

バーシャットII

CREATE CLEAN & SAFY ENVIRONMENT

施工重要寸法

ガイドレールから
75~85mm



その他4項目の詳細は中の冊子を参照してください

施工説明書

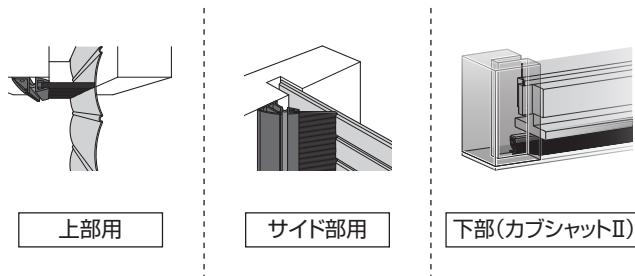
バーシャット®II

建物内への虫の侵入を未然に防ぐ!

BURRSHUT II

バーシャットII

CREATE CLEAN & SAFETY ENVIRONMENT



このたびは、バーシャット®IIをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に取り付けてください。

特に「安全上のご注意」は、取り付け前に必ずお読みください。

■シャッターメーカー様および弊社認定の施工業者様以外による施工、または説明書に記載されていない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■負荷検知装置が取り付けられている場合は、負荷検知の感度調整を行ってください。

■シャッターボディに歪み、曲がり、錆、開閉時の不具合がある場合はシャッターを修正してからブラシを必ず取り付けてください。ブラシを取り付けた後、シャッターが動かなくなる可能性があります。

■梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。 ■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。



してはいけない内容です。

⚠ 注意



禁止

- この商品はシャッター専用です。他の用途には使用しない
- 座板幅が80mm以上の場合は、施工しない
- 夏場で直射日光の当たる場所やアスファルトの上など、高温になる場所に置かない 变形の原因となります。



必ず守る

座板からネジが貫通した場合、怪我をしないように適切な処置を施してください。

部品・部材

部品・部材名	上部		サイド部		サイド部(露出型レール・中柱取付専用)	
	上部用ホルダー	上部用ブラシ	サイド部用ホルダー	サイド部用ブラシ	アングルプレート	アングルベース
姿図						
部品・部材名	下部 (カブシャットII)				すき間埋め用スポンジ	
	下部用部材		手動シャッター用		電動シャッター用	
姿図						
	長さ:1m	毛丈:60mm 長さ:1m	長さ:1m	毛丈:90mm 長さ:1m	長さ:1m 付属品:ボルト・袋ナット・ワッシャー	長さ:1m 付属品:ボルト・袋ナット・ワッシャー
	入数:1本			入数:2個	入数:2個	
	長さ:1.05m		サイズ:60×10×5 両面テープ付き		サイズ:60×10×10 両面テープ付き	
			入数:2個		入数:2個	

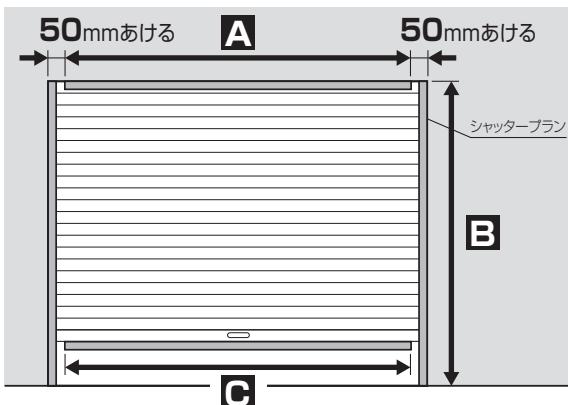
※取付用ねじは付属していません。

■推奨ねじ 上部・サイド部:ドリルねじ(ステンレス)ナベM5×13、下部(カブシャットII):小頭テクス(ねじ)、または、M4L19

89808900 品番2025.10

1 部材のカット(上部・サイド部)

① 部材寸法を確認する



A 上部

サイド部用ブラシとの干渉を防ぐため、シャッター開口幅から左右**50mm**ずつ、合計**100mm**短い寸法にカットする。
(※上部のみを取り付ける場合は、シャッター開口幅に合わせてカットする。)

B サイド部

シャッター開口部の高さに合わせてカットする。

C 下部(カブシャットII)

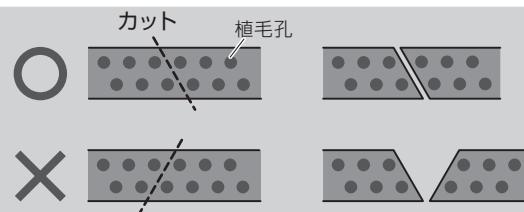
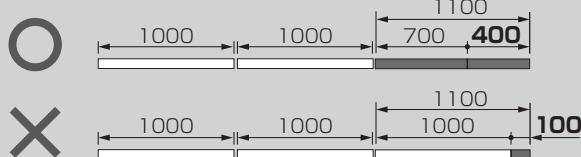
裏面 2 下部用部材の取り付け の項目をご確認下さい。

2 必要な長さに部材をカットする

重要! 部材の最小長さについて

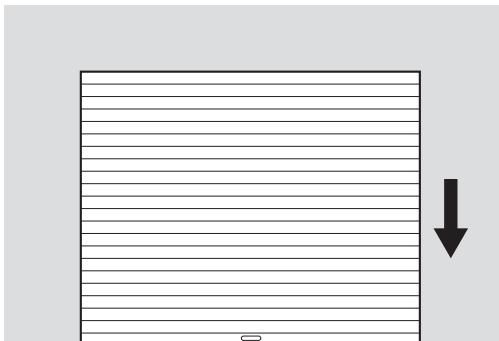
部材のうち1本が**200mm未満**にならないよう、下記図1を参考にカットしてください。カットしてつなぎ合わせるブラシ(下記の例では、700mmのブラシ)は、植毛孔にかかるよう、下図のとおり斜めにカットしてください。

(例) L寸法が3100mmの場合

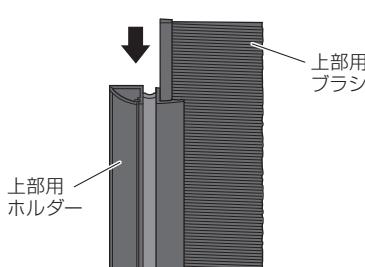


2 上部用部材の取り付け

① シャッターを閉める



② 上部用ブラシを上部用ホルダーに差し込む



③ 上部用ホルダーをねじで固定する

■ねじ固定位置

(例) 1000mmのホルダー



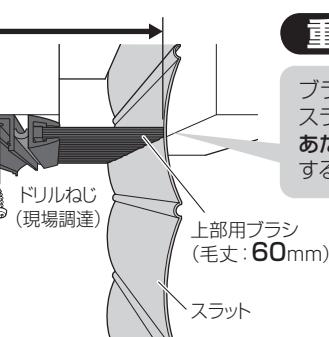
重要!

シャッター開口幅より左右**50mm**ずつ内側に取り付ける。(※1)



重要!

ブラシの先端がスラットに軽くあたる位置で固定する(約100mm)

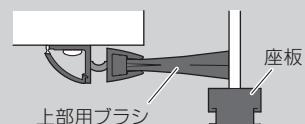


※1:上部のみを取り付ける場合は、シャッター開口幅に合わせてカットする。

重要!

障害物検知装置が付いている場合

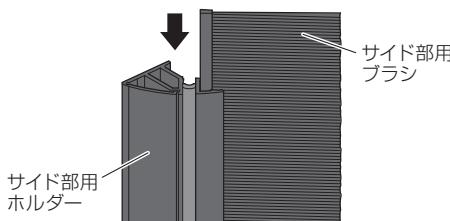
上部用ブラシの下で座板が止まるようにリミッター調整を行ってください。



3 サイド部用部材の取り付け

※取り付けはシャッターを閉めた状態で行ってください。

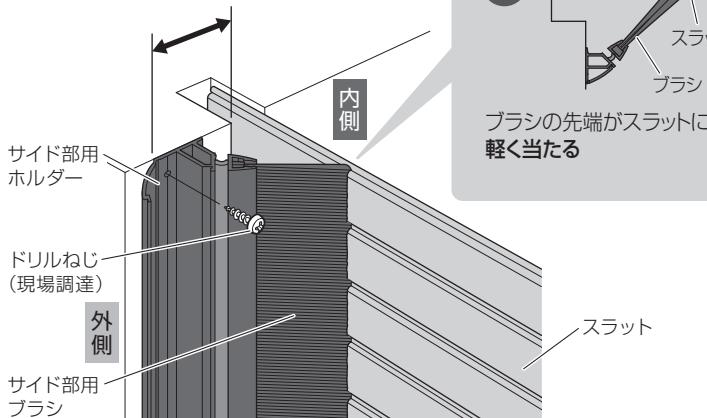
① サイド部用ブラシをサイド部用ホルダーに差し込む



② ホルダーをねじで固定する

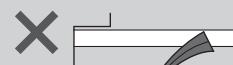
重要!

ガイドレールから
約75~80mm

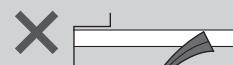


重要!

電動シャッターの場合



ブラシの先端がスラットに
軽く当たる



ブラシの先端がスラットに
押し当たりすぎている

軽量手動シャッターの場合

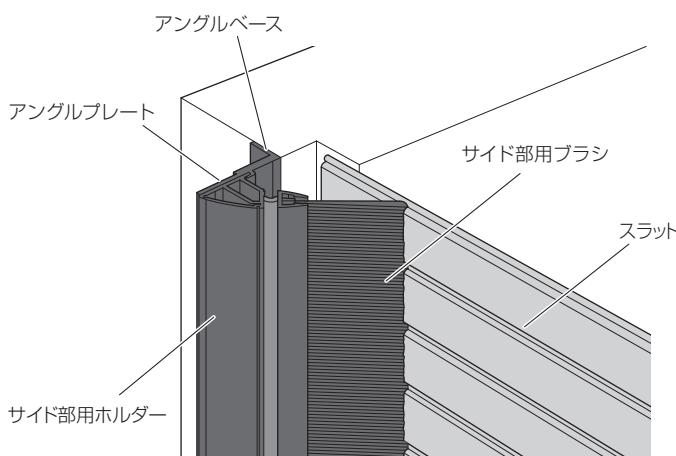


スラットへのかみ込みによるブラシの脱毛を
防ぐため、スラットの表面にブラシの
先端が触れる位置に取り付ける

露出型レール、中柱の取り付けは、専用アングルが必要です。

重要! 取り付け位置について (中柱の場合)

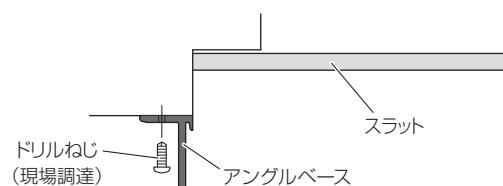
●中柱を脱着して使用する場合は、上部より100mm程下がった位置にアングルを取り付けてください。



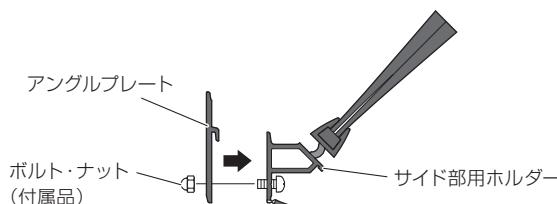
① アングルプレート・アングルベースをカットする

シャッター開口部の高さに合わせてカットする。

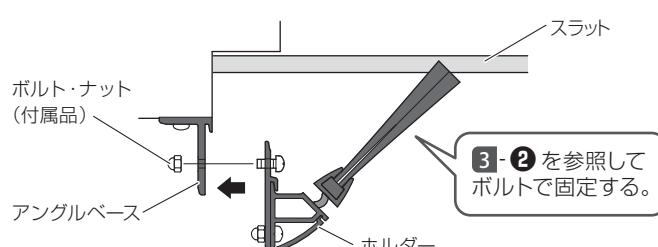
② アングルベースをねじで固定する



③ ホルダーにアングルプレートを取り付ける



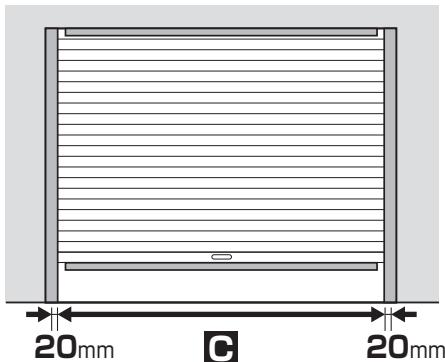
④ アングルベースにホルダーを取り付ける



取り付け手順 下部(カブシャットII)

4 部材のカット(下部(カブシャットII))

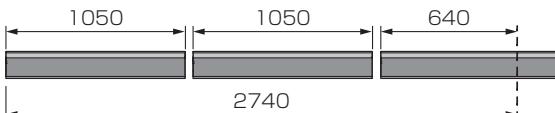
- 1 部材寸法を確認する
- 2 必要な長さに部材をカットする



C 下部(カブシャットII)

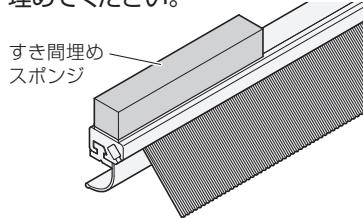
シャッター開口幅 + **40mm**にカットする。

例. シャッター開口幅2700mmの場合



すき間埋めスポンジについて

障害物検知装置付きの座板の場合は、すき間ができる場合があります。その場合は、すき間埋めスポンジをアルミ部分に貼ってすき間を埋めてください。

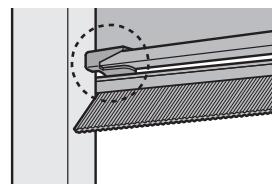


手動シャッター用
サイズ: 60×10×5
両面テープ付き

電動シャッター用
サイズ: 60×10×10
両面テープ付き

軽量シャッターの場合、水切りカバーがついている場合がありますので、スポンジ材を付けてください。

水切りカバーが2mm以上厚みがある場合は、カブシャットIIは取り付けできません。



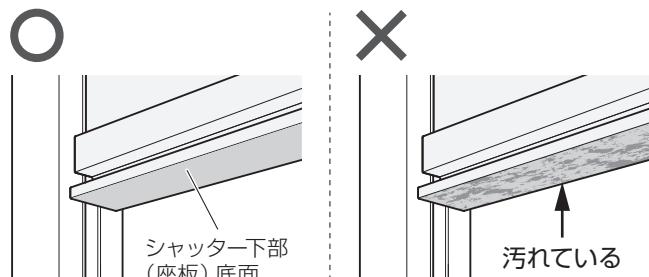
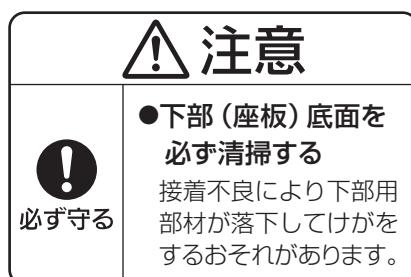
※両面テープでの接着になりますので、1本あたりの長さは**200mm以上**が推奨です。

5 下部用部材の取り付け

- 1 下部(座板)底面を清掃する

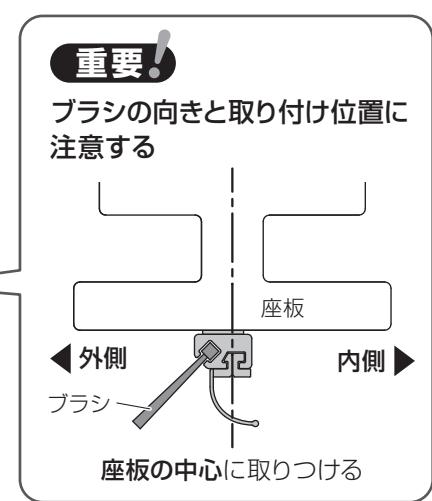
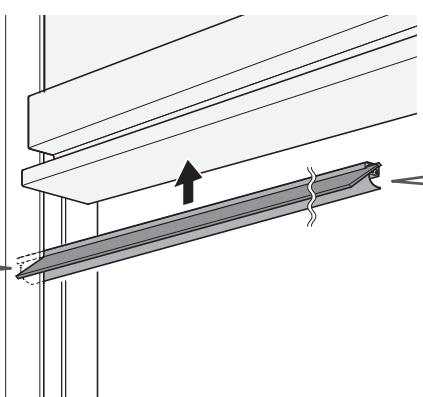
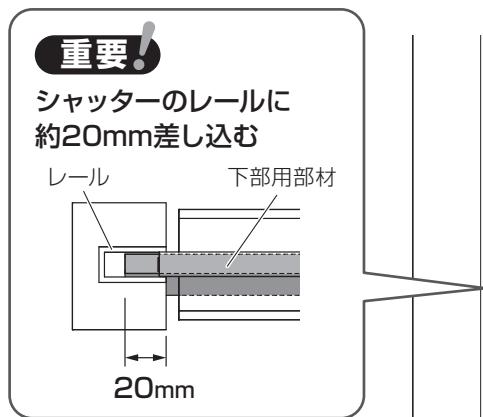
(強く接着するため)

両面テープによる施工のため座板の底面をパーティクリーナーやシンナーなどの油分を取り除く溶剤で清掃してください。



- 2 下部用部材を取り付ける

両面テープの剥離紙を剥がし、座板の中心に合わせて取り付けてください。

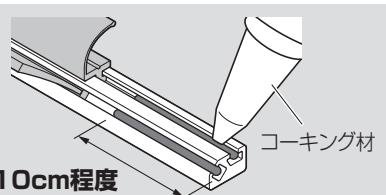


重要! ホルダーからブラシとゴムが動く場合

取り付けの際にアルミ部分の両端(レールとのはめ込み溝)にコーキング材を10cmほど塗布してください。

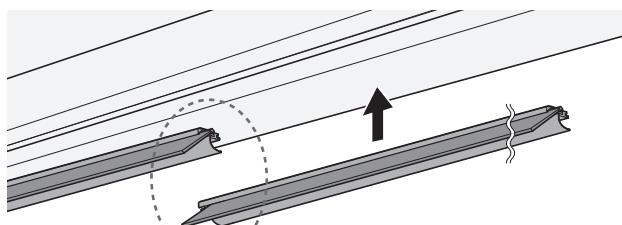
コーキング材が乾くことでブラシとゴムがしっかり固定され、動きにくくなります。

コーキング材がはみ出したりブラシなどに付着した場合は、必ずきれいに拭き取ってください。

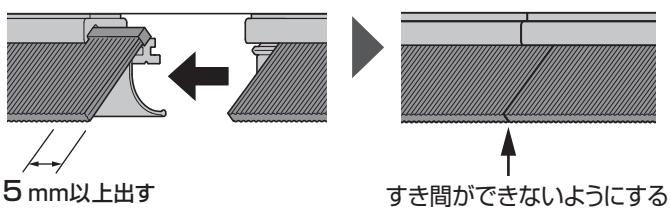


③ 2本目以降を取り付ける

ブラシにすき間ができないように、ホルダーからゴムとブラシを5 mm以上出して、次のホルダーに差し込みながら取り付けてください。



重要!

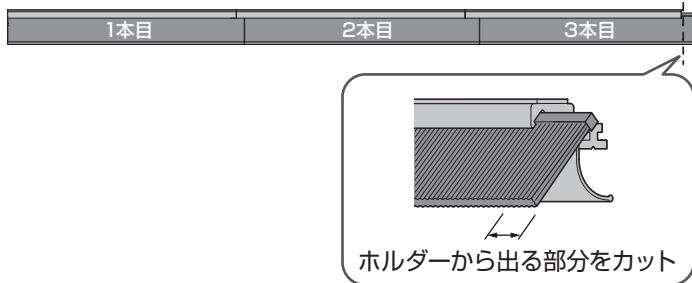


④ 最後の1本のゴムとブラシをカットする

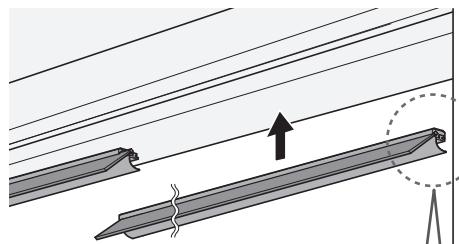
重要!

ホルダーから出ているゴムとブラシをカットする
最後の1本は、ホルダーとゴムとブラシの終端が揃うようにゴムとブラシをカットしてください。

例. シャッター開口幅2700 mmの場合

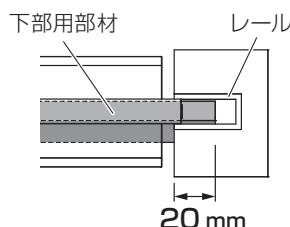


⑤ 最後の1本を取り付ける



重要!

シャッターのレールに約20mm差し込む



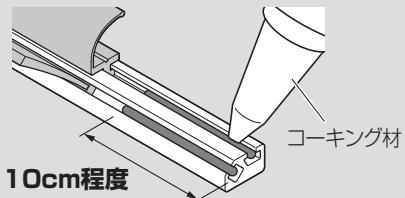
※下部用部材を取り付けると、シャッターを閉めた状態では座板が約15 mm上がります。鍵受けの位置を鍵のかかる位置に変更してください。(シャッターの鍵がかからなくなるおそれがあります。)

※電動シャッターに施工する場合、リミット調整が必要になる場合がございます。

※施工後に手動シャッターを開閉する際は、部材を持って開閉しないでください。部材に負担がかかり、破損するおそれがあります。必ずフックをフック穴に引っ掛けて開閉してください。

重要! ホルダーからブラシとゴムが動く場合

取り付けの際にアルミ部分の両端(レールとのめ込み溝)にコーティング材を10cmほど塗布してください。コーティング材が乾くことでブラシとゴムがしっかりと固定され、動きにくくなります。コーティング材がはみ出したりブラシなどに付着した場合は、必ずきれいに拭き取ってください。



取り付け後の確認

- シャッターの開閉が問題なく開閉できることを確認してください。
- 鍵のかかり具合や防犯システムの配置調整が必要になる場合があります。装置が正しく動作しているか確認してください。
- 継ぎ目部分に毛癖がある場合、数日で毛がなじんで隙間が埋まります。

こんなときは

Q カブシャットIIのホルダーの取り付け位置を間違えた

A ホルダーを取り外して、再度取り付けてください。

ただし、一度外すと両面テープの接着力が低下していますので、市販の強力な両面テープをお求めいただき、ホルダーに取り付けてください。

Q 両面テープで接着できない

A 下部用部材のアルミ部分に下穴をあけてから、ねじで固定してください。

その際、小頭テクス(ねじ)を使用すると、ゴム部分がねじの頭で膨らみにくくなります。

ただし、障害物検知装置が付いている座板にはねじを打ち込まないでください。

(ねじは両端から20 mmの位置を基準に、320 mmピッチで固定してください。)

ねじが座板を貫通した場合は、怪我を防ぐために適切な処置を行ってください。

